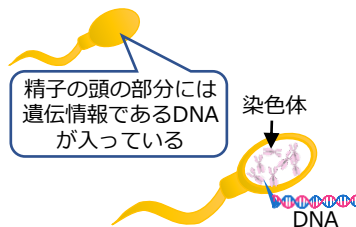


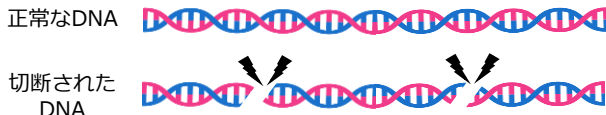
## 精子クロマチン構造検査では、精子のDNAの状態を知ることができます

※精子クロマチン構造検査はDFI検査と呼ばれることがあります

### 精子の頭にはDNAが詰まっている



精子は受精によってDNAを受け渡し、遺伝情報を子孫に引き継ぎます。DNAは長いひも状の物質で、切断されてしまうと、正しい遺伝情報が保たず精子としての役割を果たせなくなってしまいます。

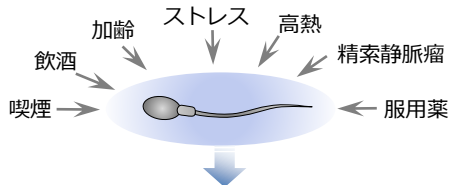


### 精子DNAと不妊の関係性

人によって、DNAが傷ついている精子の割合は異なります。精子運動率や濃度が良好であっても、DNAは傷ついたり、切断されていることがあり、そのような精子の割合が多いと自然妊娠や人工授精による妊娠の可能性が低くなることや、流産率が高くなることが報告されています。精子のDNAの質は不妊治療の結果に影響しているかもしれません。また、DNAが傷ついている精子の割合が多い場合は、体外受精や顕微授精が推奨されます。

### 精子のDNAが傷つく原因

精子のDNAが傷つく原因は様々ですが、風邪などによる高熱、疾病、生活習慣などが挙げられます。また、DNAは酸化ストレスを受けると傷つくといわれており、抗酸化サプリメントの摂取でDNA損傷が軽減されるとの報告もあります。



精子DNAが損傷を受ける可能性

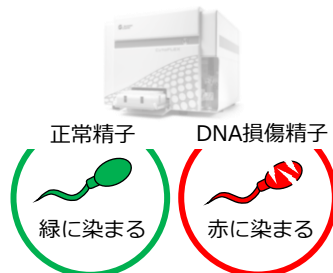
#### DNA損傷を軽減

生活習慣の改善  
抗酸化サプリメント  
外科手術（精索静脈瘤）

### 精子クロマチン構造検査(精子DNAの検査)

精子クロマチン構造検査によって、精子のDNAが正常か損傷しているかを調べることができます。

検査では、精子に色を付け、緑に染まれば正常、赤に染まればDNAが損傷していると判別します。全体の精子数に対して、DNAが損傷している精子の割合を調べ、検査結果はA（良好）～D（不良）判定でお知らせします。結果を知ることによって、生活習慣改善への取り組み目標に役立ち、サプリメントの摂取を検討する一助となります。



**検査結果は、不妊治療を体外受精や顕微授精へステップアップするなど  
今後の治療方針を立てる際の検討材料となります**

検査の詳細については、ご担当の医師、胚培養士にお尋ねください